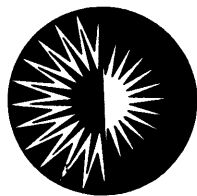




1981年4月 No.9



# 技術開発ニュース

## 研究紹介

限りある資源を大切に

- ティノグラフ（雷撃電流波形記録装置）による雷撃電流波形の観測…………… 2
- 超高圧大容量高油圧パイプケーブルの技術開発…………… 3
- 変圧器の絶縁劣化検出装置の開発…………… 4
- バケット交換網導入に関する研究…………… 5
- 密度成層場における浅海域の温排水噴流拡散…………… 6
- 蒸気タービン用高温高圧弁パッキング改造について…………… 7
- 実規模LNG冷熱発電に関する開発研究…………… 8
- 新溶接技術（電子ビーム溶接）に関する研究…………… 9

- 原子炉機器ビット壁面用吸着式除染機の開発…………… 10
- 黒ノリフリー糸状体の電氣的環境調節手法による培養研究…………… 11

## 技術解説

- 10号格差絶縁方式による配電線の耐雷対策について…………… 12
- 短期需給計画システムについて…………… 13

## 内外ニュース

- EDS（エクソン・ドナー・ソルベント）法石炭液化技術の研究開発状況について…………… 14

## ウィーンから名古屋へ

名古屋大学プラズマ研究所所長  
名古屋大学教授  
前国際原子力機関副事務総長

垣花秀武



ウィーンは古く美しい街である。中部ヨーロッパから東ヨーロッパをおおう大帝国の首都としてながく栄えた歴史をふまえ、音楽はもとよりのこと建物も絵画も美しく、食物も山海とはいえないが山野とドナウ河に恵まれ、ヨーロッパで一、二を競う豊かさである。何よりも自然が美しく、私の住んでいたあたりはベートーヴェンが田園交響曲を作曲した場所に近かったが、散歩してみると豊かに起伏するウィーンの森、葡萄畑、岡や小河、鳥の鳴声、突然カーレンベルグの岡の頂をかすめて南下してくる雷雲など、ベートーヴェンの生きていた時代と寸分変わらぬままの美しい田園風景であった。

私がかし名古屋のプラズマ研究所の現職を引き受けなかったら、今も私はウィーンの世界と文化を楽しみながら、国際原子力機関の副事務総長という激職ではあるが名誉もあり、やりがいのある仕事を続けていたであろう。そして、多分老後安住の地として妻や娘とウィーンに永住したに違いない。

しかし、私はウィーンを離れ名古屋に住み、プラズマ研究所の所長として忙しく働きまくっている。ウィーンの世界達はもとよりのこと日本の仲間も、私がかなぜ俸給が3分の1しかない現職に転じたか、不思議に思っているらしい。私にとっては、理由は簡単である。私は科学が好きであり、プラズマ物理学を基礎とする核融合研究は、私の科学的精神を魅惑して放さない。また、幸せなことに核融合研究は、時間がかかるがその成果はやがて人類の、そして日本人の幸せに確かに役立つと思うからである。さらに、名古屋のプラズマ研究所が、過去において日本のプラズマ物理研究で指導的役割を果たした輝かしい歴史をもち、それを基盤にして未来に向けて正しい路線を見出し、実行すれば、世界の核融合研究を指導する能力を充分持つと信ずるからである。

名古屋も、早朝散歩する場所にかくことはない。近郊に史蹟も多く文化の芽もこれから育て開花させればよい。私は現職、現在の生活を楽しんでいる。